

広陵町は、奈良盆地中西部に位置し、町の中央部を葛城川・高田川が流れ、西部を馬見丘陵が南北に連なり、恵まれた歴史遺産と自然環境を持ち合わせる町です。

地場産業の靴下生産高が日本一、古墳の数も多く、日本最初の長編かな文字文学「竹取物語」の発祥地など、新旧文化が融合した町です。



与楽寺 十一面観音壇像

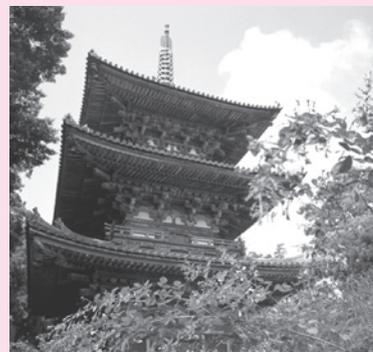
平成7年、与楽寺の十一面観音像の胎内に約700年間保存されていた1尺(30cm)の美しい十一面観音壇像が発見され、平成17年に国の重要文化財に指定されました。中国唐代に制作されたと推測される十一面観音壇像は、その配置と緻密な彫刻から、法隆寺の国宝九面観音立像に並ぶべき優品です。また、納入文書から鞘仏として制作された十一面観音像が天福元年(1233年)に造立されたことがわかりました。現在、鞘仏と十一面観音壇像は収蔵庫に収められています。



静寂な空間。新たな自分の発見

百濟寺三重塔

『日本書紀』舒明天皇11年(639年)7月の条に「詔して曰く、今年大宮及大寺を作らむ。百濟川の側を以て宮処と為す。是を以て、西の民は宮を造り、東の民は寺を作る。即ち書直ふみのあたいのあかた 県を以て大匠と為す。」とある百濟大寺伝承地です。現在の三重塔は鎌倉時代に建立されたと考えられます。大織冠たいしよくかんと呼ばれる本堂(町指定文化財)は、談山神社の本殿を移築したもので毘沙門天像、菩薩立像を祭っています。また、弘法大師が掘られたと伝えられる梵字池が境内に残っています。



先人の夢、今ここに甦る

巢山古墳

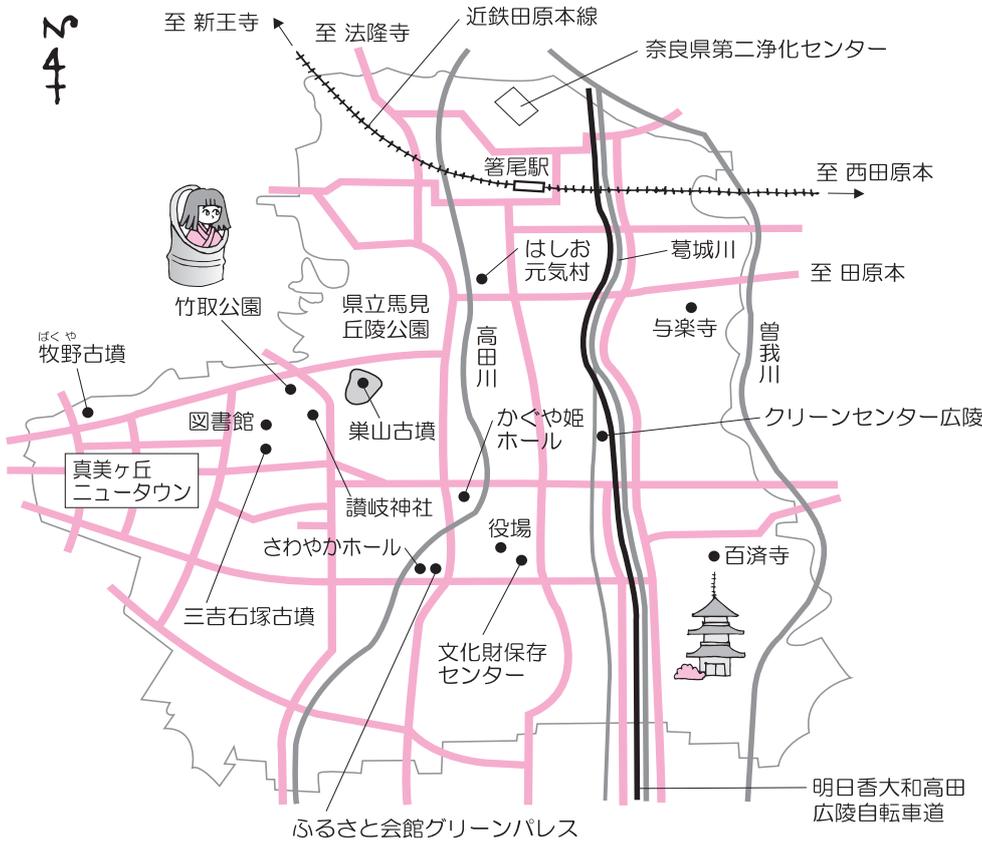
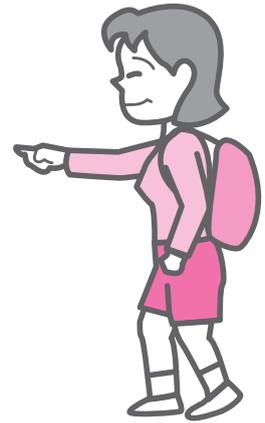
馬見丘陵の中央部に位置する北向きの大型前方後円墳で、墳丘全長約220m、後円部径約130m、高さ約19m、前方部幅約112m、高さ約16.5mの規模があり、左右のくびれ部に造り出しが設けられています。前方部の西側には出島状遺構が確認され、水鳥蓋きぬがき・盾・家・囿・柵形埴輪が出土しています。埋葬施設は後円部中央に竪穴式石室が2基、前方部にも石室が造られていました。出土遺物は勾玉まがたま、管玉くだたま、棗玉なつめだま等の玉類と鍬形石くわがたいし、車輪石しゃりんせき、石釧いしくしろ等の石製品、滑石製の刀子、斧が知られています。馬見古墳群中最大の規模を誇り、古墳時代中期初頭の葛城の王墓と考えられています。





広陵町マップ。

広陵町役場
 〒 635 - 8515
 奈良県北葛城郡広陵町大字南郷
 583 番地 1
 TEL : 0745-55-1001
<http://www.town.koryo.nara.jp>



静けさの中に漂う、古のロマンあふれる神社

讚岐神社と竹取物語

延喜式神名帳に記された神社と考えられ、現在は大物忌命・おおものいのみこと
 倉 稲 魂・うかのみたまのみこと 猿田彦命・さるたひのみこと 大國魂命をお祭りしています。『日本
 三大実録』元慶7年(883年)の散吉大建神・散吉伊能城神に神
 位を授ける記事は当社に関する可能性が大きいとされています。
さぬきおたけのかみ さぬきいのみのかみ

また、かぐや姫がおなじみの竹取物語の舞台も讚岐神社周
 辺といわれています。かぐや姫に求婚する5人の貴公子の名は
 壬申の乱(672年)で活躍した実在の人物で、かぐや姫の館に
 求婚のために通ったことから、物語の舞台は大和国広瀬郡散
 吉郷(現広陵町三吉)であるとされています。讚岐の一族が大
 和朝廷に仕えるため、竹の豊富なこの地に移りすみ、竹取物語
 が生まれたと考えられています。



はしお元気村朝市

WELLNESS VILLAGE HASHIO

毎週水・土・日は朝市に行こう!!

かぐや姫が暖かく見守っている「はしお元
 気村朝市」は、お客様から「この野菜はも
 ちがいい」と好評です。地元産の新鮮な農産
 物をはじめ、特産品も数多く取り揃えておりま
 すので、みなさんもぜひお越しください。



お問い合わせ先：はしお元気村
 電話 (0745) 57-3232
 広陵町大字并財天295番地3

毎週水・土・日曜日の午前8時～正午まで、
 はしお元気村駐車場東側にて開催しております。